

研究の背景・目的

戦後県内で造成された人工林が利用期を迎えており、その利用について様々な取り組みが始まっています。一方で伐採した跡地を確実に再生することが森林管理の面から重要な課題となっています。森林の再生方法には植栽などの方法がありますが、これまでの方法はコストが高いという問題があります。

そこで、この研究では低コストで伐採跡地を再生する技術の開発を目指します。



放置され、ササ原になった伐採跡地

研究方法

1) コンテナ苗

従来の植栽では畑から抜き取ったままの苗木（普通苗）が使用されてきました。近年、育苗用コンテナで育成されたコンテナ苗が注目されています。コンテナ苗は①根に土がついたままになっているので、山で根付きやすい。②根が小さいので植えやすい。③植え付け後の成長が良いといった性質があるといわれています。

この研究では、次の項目について調査を実施します。

- ① 植え付けに掛かる時間の短縮効果
- ② 島根県でのポット苗の適応性（雪害などへの耐性）
- ③ 普通苗との成長の違い

2) 水気耕苗

水気耕栽培で樹木の苗木を育成すると、細根が増えるので①山に植えた時の根付きが良くなる。②植え付け後の成長が良くなるといわれています。

この研究では、次の項目について調査を実施します。

- ① 水気耕栽培で育成したスギ、ヒノキ苗の細根量調査
- ② 15年前に造成した水気耕苗植栽試験地での成長、材質調査



育苗用のコンテナ



コンテナ苗(左)と普通苗(右)

研究成果の成果

この研究によって、伐採跡地の再生コストが軽減されることが期待できます。森林を利用、再生、育成するという循環型のシステムの構築に寄与すると考えられます。



水気耕苗の植栽試験地

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当グループ： 森林保護育成グループ

研究担当者： 山中 啓介・岩田 若菜
陶山 大志

問い合わせ先： 0854-76-3820

E-mail： chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名： 森林再生コスト削減の技術開発